

学校薬剤師部部員各位

(一社)姫路薬剤師会 会長 浦上 文男

学校薬剤師部 部長 深見 達也

薬物乱用防止教室指導参考資料について

平素は学校薬剤師部の活動にご協力いただきありがとうございます。

一般社団法人兵庫県薬剤師会学校薬剤師部より表題について案内がございました。

このたび、東京薬科大学薬学部社会薬学研究室 教授 北垣邦彦氏より、同教授にて
作成された薬物乱用防止教室指導参考資料について、活用依頼がありました。

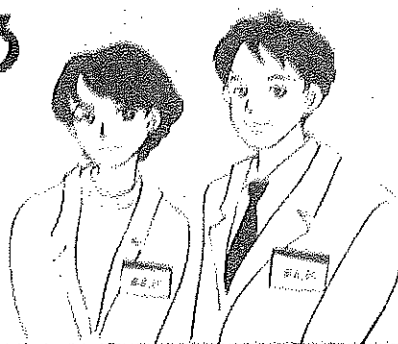
同教授の研究室HPよりダウンロードが出来ますので、そちらをご活用ください。

あわせてパワーポイントもダウンロードができますので、そちらもご活用ください。

- ・薬剤師が小学校で行う喫煙防止教育(小学校向け)
- ・薬剤師ならではの「薬物乱用防止教室」(高等学校向け)アンチドーピング・大麻

上記の冊子の表紙と裏表紙を添付します。冊子に記載の案内を参照ください。

薬剤師が小学校で行う 喫煙防止教育



お願い

本冊子は、Web上に公開しているパワーポイント資料、児童用ワークシート、児童及び学校薬剤師を対象としたアンケートについて解説したものです。

- 資料等 (①「薬剤師が小学校で行う喫煙防止教育」冊子、②「薬剤師が小学校で行う喫煙防止教育」パワーポイント資料、③ワークシート(児童用)、④アンケート用紙(児童用))の公開場所

検索

東京薬科大学 薬学部 社会薬学研究室

東京薬科大学ホームページ→薬学部→研究室紹介(医療薬学科の研究室→社会薬学)
→資料・アンケート→喫煙防止教育参考資料

<http://www.ps.toyaku.ac.jp/shakaiyakugaku/>

授業までの流れ

1. 小学校からの「薬物乱用防止教室」等の講演依頼
2. 資料等を上記ホームページからダウンロード
3. 担当教職員と打合せ
 - 授業の時間及び持ち時間、児童の人数、体育科保健領域でどこまで学んでいるかなどを確認する。
 - 話の概要及び話す時間、またワークシートについて説明する。
 - 児童にアンケートを取りたい旨を依頼する。

講義担当者(学校薬剤師)用アンケートの依頼

パワーポイント資料をダウンロードされた方は、資料の活用状況等について簡単なアンケートが用意されています。ご協力をお願いいたします。

児童用アンケートの依頼

担当する学校から児童へのアンケートの実施について了承が得られましたら、調査の実施にご協力をお願いいたします。

ご協力いただける学校(学校薬剤師)には、児童人数分の調査用紙と着払いの返信用封筒を送付いたします。受付は上記ホームページで行っています。(2021年3月末まで)

【アンケート実施上のお願い】

- ・児童がアンケート記載中は、講義担当者、担任教員は巡回をしないようにしてください。
- ・児童にはアンケート用紙に名前を記載しないように指示してください。
- ・アンケートに答えたくない場合には、答えなくてもよいことをお伝えください。

本冊子について

近年、「薬物乱用防止教室」に参画する薬剤師（特に学校薬剤師）が増えており、小学校の講師としては他の職種と比べて最も多く活躍しています。小学校における「薬物乱用防止教室」では、覚醒剤等の乱用薬物ではなく、たばこを例にして健康影響、特に「依存症」の危険性について取り上げることがあります。一方、小学校5・6年生では、「喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」について体育科保健領域において必ず学ぶことになっています。そこで本冊子は、小学校の「薬物乱用防止教室」の講師となる薬剤師が「薬剤師ならではの」講演ができるように、その際の参考となる内容を検討し作成しました。

本冊子を使った講義では、①たばこをやめられないのは「依存症」という病気であること、②たばこの「依存症」は治療できること、③その治療を手伝ってくれる専門家が身近にいることの3点を知識の習得目標とします。そして学んだ知識を活用して、身近な喫煙者に対して助言しようとする意識や考えを育むことも目標としています。さらに、大人になっても喫煙をしない、身近な医療資源である「かかりつけ薬局・薬剤師」を活用しようとする意識や考えを育み、学びを人生に生かそうとすることを最終目標と考えています。

2015年の国民健康・栄養調査（厚生労働省）によると、現在習慣的に喫煙している人の割合は、18.2%です。年齢別にみると、学童期の子供を持つ親世代でその割合が高くなっています。一方、現在習慣的に喫煙している者のうち、たばこをやめたいと思う者の割合は、27.9%です。しかし、身近に禁煙治療が受けられる医療機関があるかどうかを知らない人が55.2%もいます。

健康日本21（第二次）では、2022年度には成人喫煙率を12%まで引き下げる目標を掲げています。その目標達成には、現在習慣的に喫煙している者に対して身近に禁煙治療が受けられる医療機関があることの周知を図り、禁煙の動機付けを行い治療機会を増やすことが不可欠です。しかし、現在習慣的に喫煙している人に直接、周知を図り、動機付けを行うことは極めて困難であると思われます。

そこで、学童期の子供を持つ親世代での喫煙率が高いことに着目し、学童期の子供たちが身近な大人に働きかけることが有効であると考えました。そのための薬剤師ならではの講演に活用していただけるよう、この冊子を作成しました。薬剤師の専門性とは、必ずしも専門性の高い内容を細かく指導することではないと考えています。まずは薬剤師は何ができるのかを知ってもらうことが大切だと思います。

小学校の1単位時間は45分です。今回例示した「喫煙防止教育編」は、15枚のスライドで構成されており、20分程度で話ができます。その後のワークシートへの記入やアンケート調査を行い、学級担任等の補足等があっても十分な時間があると思います。なお、本冊子は、スライドの「解説例」と解説する際の「ポイント」を記載しています。「解説例」は例示なので講師自身の生きた言葉で話していただいても構いません。「補足」は、解説する際の講師の予備知識としておさえておいた方がよいと考えた内容であり、子供に必ずしも伝えなければならないものではありません。

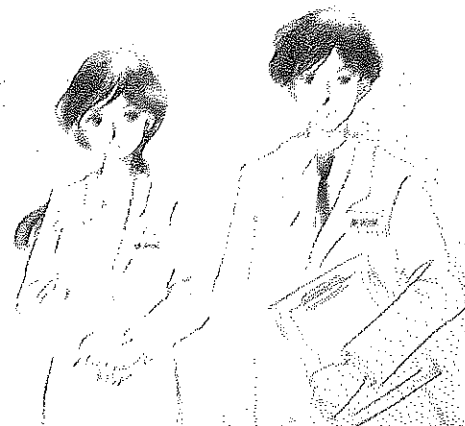
作成者一覧（50音順、2019年4月現在）

◎代表者

笠原 大吾	沖縄県薬剤師会・学校薬剤師部会副会長
加藤 哲太	日本くすり教育研究所・代表理事
◎北垣 邦彦	東京薬科大学・教授
鬼頭 英明	法政大学・教授
嶋根 卓也	国立精神・神経医療研究センター・室長
関根 幸枝	茨城県銚田市立旭西小学校・養護教諭
大黒 幸恵	新潟県学校薬剤師会・副会長
田口 真穂	横浜薬科大学・講師
七嶋 和孝	長崎市薬剤師会・専務理事
並木 茂夫	日本学校保健会・事務局顧問
畑中 範子	千葉県学校薬剤師会・会長
村松 章伊	日本薬剤師会・学校薬剤師部会会長
山口 一丸	名古屋市学校薬剤師会・会長
東京薬科大学社会薬学研究室一同	

本プロジェクトはグローバルブリッジ・ジャパンプロジェクトとして、ファイザー社（米国本社）から助成を受けたものです。

薬剤師ならではの 「薬物乱用防止教室」



本冊子について

近年、「薬物乱用防止教室」に参画する薬剤師（特に学校薬剤師）が増えており、他の職種と比べて小学校では最も講師として活躍しています。一方、中学校、高等学校ではその割合が低くなっています。「薬物乱用防止教室」には新たな課題に対して専門家からの視点をもった情報提供をすることは重要であり、薬剤師にはその役割を担うことが期待されています。そこで、教職員や高校生にも身近に感じられる題材を選択し、薬剤師が専門性を生かしながら活用できる参考資料を作成しました。

なお、薬剤師が中学校、高等学校で参画するためには、校長等管理職や養護教諭をはじめとして保健体育科教諭、生徒指導担当教諭、保健主事等との連携も大切ですので、是非積極的に声をかけ、連携を図るようにしてください。

アンチドーピング編

医薬品の適正使用に関する指導は、中学校・高等学校の保健体育科で行われており、薬剤師は医薬品の専門家として関わるのが大切です。ドーピングは中学校や高等学校の学習指導要領でも取り上げられており、薬物乱用であるとともに、医薬品の適正使用に関する問題でもあります。さらに、「頭が良くなる」などと称してインターネット等で広まっているスマートドラッグも現代的な課題です。そこで、本冊子では、薬物乱用として「アンチドーピング」を取り上げ、医薬品の適正使用と関連付けた講演ができるような参考資料を作成しました。この資料を用いて、「うっかりドーピング」から「かかりつけ薬剤師」の役割、有用性についてもぜひアピールしてください。

大麻編

近年、大麻については、インターネット等において、「有害性がない」等の誤った情報が氾濫しており、青少年の大麻乱用の拡大につながっているといわれており、現代的な課題です。大麻については海外において嗜好目的での使用が認められるなど、子供を含めた多くの人にとって、その危険性が伝わりにくくなっています。そこで、本冊子では、「大麻」を取り上げ、高校生にも一緒に考えてもらう講演となる参考資料を作成しました。

本冊子の活用

本冊子は、薬剤師（特に学校薬剤師）が「薬物乱用防止教室」の講師として高等学校に呼ばれた際に、薬剤師ならではの講演を行う素材を例示したものです。薬剤師の専門性とは、必ずしも専門性の高い内容を細かく指導することではないと考えています。薬剤師ならではの気付きを生徒に伝えていただくことが大切だと思っています。

高等学校の1単位時間は50分です。今回例示した「アンチドーピング編」及び「大麻編」は、それぞれ14枚のスライドで構成されており、20分程度で話ができます。「薬物乱用防止教室」の形態は、各学校によってそれぞれであり、他の講師と分担する場合はどちらかを選んで使うこともできます。

本冊子の内容は、パワーポイント資料があり、下記ホームページからダウンロードできます。

検索

東京薬科大学 薬学部 社会薬学研究室

東京薬科大学ホームページ→薬学部→研究室紹介（医療薬学科の研究室→社会薬学）→資料・アンケート→薬物乱用防止教育参考資料

<https://www.ps.toyaku.ac.jp/shakalyakugaku/>

（お願い）パワーポイント資料をダウンロードされた方は、資料の活用状況等について簡単なアンケートが用意されています。ご協力をお願いいたします。

（お願い）授業アンケートを実施していただける方には、別途質問紙等を郵送します。受付は上記ホームページで行っています。（2021年3月末まで）

作成者一覧（50音順、2019年4月現在） ◎代表者

笠原 大吾	沖縄県薬剤師会・学校薬剤師部会副部会長
加藤 哲太	日本くすり教育研究所・代表理事
◎北垣 邦彦	東京薬科大学・教授
鬼頭 英明	法政大学・教授
嶋根 卓也	国立精神・神経医療研究センター・室長
大黒 幸恵	新潟県学校薬剤師会・副会長
田口 真穂	横浜薬科大学・講師
七嶋 和孝	長崎市薬剤師会・専務理事
並木 茂夫	日本学校保健会・事務局顧問
畑中 範子	千葉県学校薬剤師会・会長
舩田 正彦	国立精神・神経医療研究センター・室長
村松 章伊	日本薬剤師会・学校薬剤師部会部会長
山口 一丸	名古屋市学校薬剤師会・会長
東京薬科大学社会薬学研究室一同	

本冊子は、公益財団法人日本健康アカデミーの「健康知識・教育に係る公募助成」を受け作成されたものです。